

日本小児感染症学会若手会員研修会第6回瀬戸内セミナー

瀬戸内セミナーをふり返って

坂田 宏*

昨年は所用で欠席したため、今年は2年ぶりの参加になりました。今回は小児感染症学会のなかではベテランともいえる研究教育委員会のメンバーと実際の若手会員との溝？を埋め、さらに次世代の学会を支える人材を育成する目的で、ジュニアチューターをおくという初の試みが行われ、2年前とは大きく様変わりしていました。私はジュニアチューターとして福島県立医科大学の佐藤晶諭先生が率いるFグループを担当することになりました。Fグループのテーマは「抗インフルエンザ薬：明日から役立つウイルス学的基礎知識」で、6名がメンバー（都合で1名不参加）で

した。私はインターネットではread-only、セミナー自体には3時間しかいないという参加になり、申し訳なく思っています。しかし、インターネット会議の始まりから論文まで、佐藤先生がきっちり仕上げてくださいました。佐藤先生には本当に感謝しています。インターネット会議が始まって1週間では、数名と連絡がとれない、発言が少ない、議論が成立しないという、ないない状態で始まったFグループですが、セミナー開始後の頑張りはさすがだと感心しました。成果はFグループの報告を一読して、今年のインフルエンザの診療にいかしていただきたいと切に思っています。

* * *

* 旭川厚生病院小児科